

2026年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所
第72代理事長 柘植 信吾

Who'll be the next

～次代を照らす先駆者たれ～

～はじめに～

戦後の混乱を乗り越え、日本は高度経済成長期においてかつてない飛躍を遂げ、1955年から1973年の18年間で、実質GDP成長率は年平均9.1%に達し、世界的にも類を見ないスピードで経済を拡大させた国となりました。この急成長を支えたのは、復興と繁栄を信じて懸命に働き、未来を築こうとした人々の強い意志と行動であったことにほかなりません。当時の人々は、より良い暮らしを目指し、「家庭を持ち、家建て、車を持つ」といった理想像を描き、それを叶えるために挑戦し続け、「努力すれば報われる」という価値観が社会全体に浸透しており、それが挑戦への動機となっていました。しかし現在、失われた30年と言われる経済停滞の中で、私たちは将来に対する希望が抱きづらい社会に生きています。価値観は多様化し、「成功」の基準が曖昧になった結果、挑戦そのものの価値が見えづらくなり、一步を踏み出すことをためらう空気が広がっている時代のように感じます。

そんな時代だからこそ、私たち青年会議所の存在意義が問われています。青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を掲げ、理想を現実に変える力を持つ団体です。「私たちがこのまちの未来を創るんだ」という確固たる覚悟を持ち、挑戦する姿勢を示し続けることにこそ、その存在意義があると私は考えます。そして、一人ひとりが自身の可能性を信じて一步を踏み出し、その歩みが重なったとき、私たちはどんな困難も乗り越えることができます。今を生きる私たちの挑戦が変化の起点となり、やがてまちの未来を変えていく。この行動こそ明日を希望に満ちたものにする唯一の道であると、私は信じています。

一人ひとりが未来に光を灯し、次代を牽引する存在になるために、今こそはじめての一步を踏み出しましょう。

～挑戦できる子どもたちの創出～

現代の社会は、生活基盤が整い、あらゆる分野で利便性が高まっています。子どもたちもまた、その中で育ち、日常的に触れる情報の量や世界とのつながりは、私たちの世代が経験したものとは比べものにならないほど広がっています。身近な環境のみに縛られず、多様な価値観や選択肢に触れることができるようになったことは、成長の可能性を大きく広げていると考えます。一方で、効率が重視され、プロセスを省こうとする社会の風潮の中では、粘り強く努力を積み重ねるような経験を得る機会が減少してきています。人は、困難に立ち向かい、自ら考え、時に泥臭く試行錯誤する中で成長していくものではないでしょうか。私自身も、子ども時代の挑戦や経験が、自らの価値観や生き方を形作り、今もなおその土台として力強く支えてくれていることを実感しています。

中津川市の教育大綱「より良いひとりだちビジョン」には、「自らが課題に取り組むよりも、周囲の動きを待つ傾向がある」ということが地域気質として挙げられています。こうした背景を踏まえ、行政や各種団体においては、体験活動や地域行事など、多様な育成プログラムが整備されてきました。それらの取り組みにより、子どもたちの体験の機会は広がっていますが、これからの不確実な社会を生き抜くためには、自らの意思で判断し、主体的に挑戦することのできる場が必要です。子どもたちにとっての挑戦とは、結果を出

すためだけにあるのではなく、未知の世界に飛び込む「最初の一步」そのものです。そして挑戦を通じてこそ、未来を自分の手で切り拓いていけるような力が育まれ、失敗や試行錯誤する経験を通して、人の役に立てたという実感や、新しいことに取り組む楽しさを感じることが、次なる挑戦への意欲につながります。そのためには、私たち青年会議所が、行政や家庭で補えない視点から、子どもたちに挑戦できる環境を提供し、そこから得られる経験を通じて、より良い変化をもたらす推進事業を展開してまいります。そして、このまちで挑戦する喜びを知った子どもたちが、やがて大人になり、日本中、世界中に飛び出し、さまざまな場所で活躍し、どこにいても中津川を思い、自分たちのふるさとを応援してくれるような未来がくることを私は信じています。

～次代へと紡ぐおいでん祭の歩み～

本年度、40周年という大きな節目を迎える「おいでん祭」。長きにわたり市民の心をひとつにし、中津川の夏の風物詩として多くの人々に愛されてきたこのまつりは、中津川青年会議所の先輩諸兄姉が、多くの方々と共に、情熱を注いで創り上げてこられたものです。私たちもまた、その想いと誇りをしっかりと受け継ぎ、本年度も各種団体の皆様や演者の皆様、そして市民の皆様と共に新たな歴史の1ページを紡いでまいります。

私が考えるまつりの本質は、「人と人が心を通わせる場」であり、市民にとっての「心のよりどころ」であると考えます。脈々と受け継がれてきた伝統をこれからも継承していくためには、その本質を大切にしながら、さらに磨きをかけていくことが欠かせません。そうしてこそ、地域の誇りとして次代へ継承されていくと考えます。しかし現在、まつりにおける市民の参画は年々減少傾向にあり、このままでは担い手不足、規模の縮小など、「おいでん祭」が育んできた価値や意義が徐々に薄れ、本来まつりの持つ華やかさや、その魅力まで減少してしまう恐れがあります。だからこそ、私たちは本質を今一度見つめ直し、まつりを次代へと紡いでいくことが重要です。そのためには、この大切な伝統を紡ぐ担い手として、「おいでん祭」に込められた想いに触れ、その魅力を感じた市民がまつりへの愛着を深め、持続的に参画できる仕組みを構築することが必要です。そして、まつりに関わる多くの方々と歩みを重ねる中で、さらに多くの人々を巻き込み、魅力を高めていくことで、今まで以上の活気と華やかさがまつりに宿り、これからも「誰の心にもつながるふるさとのまつり」として次代に継承されていきます。

～岐阜ブロック大会への支援と次代につなぐ組織の価値～

本年度、第67回岐阜ブロック大会2026が中津川の地にて開催されます。本大会においては、副会長、委員長をはじめ多くのメンバーを出向者として輩出しており、私たちは開催地LOMとして、出向者がその役割に全力で取り組めるよう、組織として支えていく立場にあります。だからこそ、本大会を出向者だけの担いとするのではなく、LOM全体として関わり、出向者が安心して挑戦できる環境を整えることが必要です。日々の関わりと支えの積み重ねが、出向者にとっての大きな力となり、その姿勢が組織全体の一体感を生み出していくと考えます。また、責任ある立場で役割を果たす出向者の姿を近くで見ることが、出向していないメンバーにとって今後の活動を主体的に捉えるきっかけになると考えます。

大会当日においては、開催地LOMとして出向者と共にその場を共有し、各地から訪れる方々を迎える姿勢を示すことが重要です。そうした関わりの積み重ねが、中津川青年会議所の信頼を高め、将来のメンバーにとっても大切な基盤になると考えます。

岐阜ブロック大会への支援を通じ、私たちは開催地LOMとしての責任を果たすと同時に、組織の価値を次代へとつないでまいります。

～このまちのリーダーを目指す組織づくり～

私たちは、単に名を連ねるだけの「会員」ではありません。地域の未来に責任をもち、

行動する「当事者」であり、一人ひとりが地域を牽引するリーダーを目指す存在です。その姿は、地域の人々や家族、そして次代を担う若者たちにとって誇りとなるような存在でなければなりません。そして、どのような時代にあっても変わらないのは、青年会議所が地域のために、仲間と共に本気で挑戦し続ける団体であるということです。

組織に目を向けると、会員数は減少しているものの、一人ひとりに求められる役割や責任は大きくなり、心構えや行動が組織の行方を左右するからこそ、私たちは、周囲から「こうなりたい」と思われるようなリーダー像を目指し、それを体現していくことが求められます。その姿勢こそが青年会議所の価値となり、共感を生み、次なる仲間を引き寄せる力となります。それらの積み重ねにより、志を同じくする仲間が増え、組織としての力は高まり、事業や活動を通じた運動の広がりや、地域での存在感は増していきます。だからこそ、日々の活動や想いをより広く発信し、様々な方に届けていくことが必要です。そうすることで、私たちに共感し、活動を共にする仲間が集い続ける組織を目指してまいります。また、礼節を重んじ、やるべきことを当たり前にやり抜き、責任を果たす姿は、まちや仲間信頼をもたらしめます。そして、何事にも妥協せず取り組む姿勢が大切です。取り組んだ結果は成功だけではないかもしれませんが、全力で挑んだことで得られる経験は個人の成長につながり、組織をより強くします。

青年会議所での経験は、社業や社会に還元してこそ、真の価値を持ちます。在籍年数に関わらず、青年会議所活動を通じ、一人ひとりが視野を広げ、得られた学びを活かすことが、まちへ更なる活力をもたらしとを考えます。学びの機会に満ち、志を同じくする仲間が切磋琢磨する中から自ずと成長が育まれる、そんな風土を醸成してまいります。私たちはこれからも、このまちの次代を担う存在として、地域へ確かな存在感を示してまいります。

～終わりに～

音楽は、時代や国境を越えて人々の心に寄り添い、魂を揺さぶり、行動を促してきました。その旋律が感情を動かすように、私たち青年会議所の運動もまた、このまちに響き、誰かの心に火を灯すものでありたい。1971年、ジョン・レノン是这样歌いました。

“You may say I’ m a dreamer, but I’ m not the only one.” -Imagine

(君は僕のことを夢想家だと言うかもしれない。でも僕は独りじゃない。)

理想を語ることは、ともすれば綺麗事と捉えられるかもしれませんが、しかし、それを分かち合い、共に行動する仲間がいれば、それは現実を変える力へと変わっていきます。私たち青年会議所は、そんな理想を現実に変える力を持つ団体であるからこそ、このまちの明るい豊かな未来のために、今までの自分を超えていくための一歩を踏み出さなければなりません。その積み重ねこそが挑戦そのものであり、それらは確かな変化となり、未来を照らす灯火となります。「あの歩みが、未来を変えた」と胸を張って言えるよう、一年間共に歩んでまいりましょう。

〈運営方針〉

- ・失敗を恐れない積極的な行動
- ・「明るく・楽しく・前向き」な委員会運営
- ・メリハリのあるLOM運営

〈運動方針〉

- ・人生を切り拓く力を養う青少年育成
- ・「人と人とのつながり」を大切にしたいおいでん祭の推進